

ともしび保育園



2019年12月1日 発行



「神は我々と共におられる」



「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(マタイによる福音書1章23節)

クリスマスって何でしょう。こどもたちに尋ねましたら、「イエスさまのお誕生日」と答えるでしょう。イエスさまってどんな人って尋ねますと、「やさしい人」、「困っている人を助ける人」などと言うでしょう。

上記の聖書の言葉は、マリアの夫となるヨセフに、神さまがお告げになったお言葉です。マリアは男の子を産むこと、その名をイエスと名付けること、そして、その子は自分の民を罪から救うことを告げられたのです。そして、その男の子はインマヌエルと呼ばれると言うのです。どうして、そんなにややこしい名前にしなければならないのでしょうか。それには訳があります。

イエスという人は、キリスト（人々を罪から救う人）ですから、後々イエス・キリストと呼ばれるようになりました。そして生涯、罪人と呼ばれる人、社会的、経済的に困難な人を救い、健康的に弱い人、心が病んでいる人を癒しました。一番大事なこととして、その人たちの心を開かれ、寄り添い、神様の救いに導かれたことです。

イエスさまは、他人からは居てもいなくてもよい人と思われた人を救い、幸せに導きました。余計者と言われて仲間はずれにされた人たちと共にいて、仲間にさえなったのです。イエスさまは、世の中で堂々と生きられない人たちに寄り添われたのです。

神さまが共にいてくださると言うことを伝え、御自分も病む人、貧しい人、差別され疎外されている人と共に生活をされました。人々が安心して、ゆとりをもって生きていけるようにしてくださいました。



わたしたちが、神さまなしでも世の中は生きていけると思うのは、傲慢ではないでしょうか。そういう心には、差別や、ねたみや、自分だけのことしか考えない悪魔が潜んでいるのかも知れません。

クリスマスには、神さまに心を開いて、イエスさまをお迎えしたいと思います。

袖ヶ浦ともしび伝道所協力牧師 芳賀慶治